

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ
(第六部 帰国)

57

第十九幕 第五場

1524年1月

ヴェネツィアからジェノヴァへの道すがら

登場人物：巡礼者 イニゴ

兵士 I、J

指揮官

親切なスペイン人とその妻

フランス軍の隊長

【語り】 前々回（第十九幕第三場）および 前回（第十九幕第四場）において、イニゴをスパイ容疑で捕らえて厳しく尋問した兵士たちを、フランス軍の兵士と解釈し、そのように描写しましたが、実際はスペイン軍の兵士だった可能性の方が大きいようです。

イグナチオの『自叙伝』の幾つかの版と解説書（エヴァンヘリスタ SJ・佐々木版；門脇佳吉 SJ 版、Gerald Coleman, SJ 版、Tylanda, SJ 版）の解説や注を参照しましたが、いずれにもフランス軍かスペイン軍かを明記したものはありませんでした。しかし、前後関係、特に釈放後すぐ親切なスペイン人に会い世話を受ける場面を見ると、そこがスペイン軍の勢力下にあった地域だったとみるのが妥当であり、イニゴを最初に捕まえたのはスペイン軍兵士であつたろうと思われまふ。翌日二度目に拘束されたときは、フランス軍と明記されていますが、第三、第四場に出てくるフランス軍兵士は、単に兵士とだけ表記します。

イニゴの「知らぬ、存ぜぬ」一点張りにしびれを切らした兵士たちは イニゴを指揮官のもとに送りました。決心したとおり、イニゴは指揮官に対しても「あなた」とだけ呼びかけ、敬意を表する態度や言葉遣いを避けました。

指揮官： お前はさっきから はい、いいえ、知りません ばかりで、何の要領も得ないが、わしの質問が分かっているのか？

イニゴ：（しばらく考えてから）ハイ、あなたの質問分かります。

指揮官：ならば、サッサと答えたらどうだ！！スパイでないと言うなら、その証拠を示せ！

イニゴ：（しばし沈黙）その証拠は私がスパイではないことです。

指揮官：それでは答えになっとらん！（机をたたく。いらいらしながら廊下側のドアを開けて叫ぶ）お〜い、この男を連れて来た者を呼べ。

（しばらくして、眠そうな二人の兵が入ってくる）

兵士I、J：閣下、何の御用でありますか？

指揮官：こいつは頭がおかしい。スパイなど務まらん。調べるだけ時間の無駄だ。所持品を返して、サッサと外に放り出さない。

兵士：はっ。

【語り】 こうしてイニゴは自由の身となり、空腹に耐えながら人が住んでいそうな方へよろよろと歩いていきました。その時、後ろから一人の男がイニゴを呼び止めました。

見知らぬスペイン人：Buona sera.（こんばんは）

イニゴ：Buenas noches.（こんばんは）

スペイン人：ああ、あんたスペイン人か？

足を引きずっているようだが、足が痛いのか？こんな夜更けにどこへ行くんだ？

イニゴ：ジェノヴァに行こうとしてるんですが、スパイと間違えられて軍に捕まってしまいましたね。

スペイン人：そいつぁ気の毒だったねえ！大変な目にあっただね。ひどく

疲れているようだが、ちょっとわしの家に寄ってかないか？すぐそこだから。

イニゴ：有難うございます。今朝から歩き詰めだったので、助かります。

【語り】先に行く親切なスペイン人の後をイニゴは懸命に足を引きずりながらついていき、間もなくその人の家の玄関にたどり着きました。

スペイン人：さあ着きました。どうぞ。

(中に向かって) ただいま。 お客さんをお連れしたよ。

妻： お帰りなさい。まあ、こんな時間にお客様？突然すぎますわ。せめてLINEかメールで知らせてくださればいいのに。

主人： そのためにはあと500年待たないとね。

イニゴ：夜分遅くにすみません。ご主人のご親切に甘えまして。

スペイン人：たいそうお疲れのようだ。大変な難儀に遭われてね。

妻： 左様でしたか。とにかく、どうぞお入りください。夕ご飯まだなのでしょう？今夜のスープとパンがあります。すぐ用意しますから少しお待ちください。

(食堂に案内されたイニゴの前に、熱いスープとパン、夕食の残りを並べながら)

何もございませんが、どうぞお召し上がりください。

夫： おお、日本流のあいさつだね！

イニゴ：日本流でもイスパニア流でもかまいません。喜んでいただきます。今日初めて口にする食べ物です。

夫： そうだったんですか！ 思い切って声をかけてよかった。あなたはすんでのことに、行き倒れになるところでしたね。ここから先はフランス軍の勢力が優勢で、つかまったら最後どんな目に遭うか分かりませんよ。よくもまあ あなたは弾丸の飛び交う戦場を一人で旅すること

が出来ますね！

イニゴ：どんな時でも神が守ってくださるので全く心配はありません。ついさっきも スパイ容疑で危ない目に遭いました。絶体絶命になると、必ず神様が助けてくださるのです。現に今あなた方のご親切に助けられています。父なる神様に^{まった}全き信頼を置くとき 裏切られることはありません。

妻： それでヴェネチアからここまで無事に来られたのですね。引き続きジェノヴァまでのご無事をお祈りいたします。

イニゴ：有難うございます。熱いスープとパンをいただいて、やっと人心地がつかしました。神様と皆様に心から感謝いたします。

夫： まあ、今夜はゆっくりお休みください。旅に必要なものは何でも言ってください、用意しますから。

イニゴ：有難うございます。神様があなた方のご親切にお報いくださいますように。おやすみなさい。

【語り】 疲れていたイニゴは長くはなかったがぐっすり眠り、翌朝心身ともに元気を回復し旅を続けることが出来ました。相変わらず、西仏両軍が対峙する戦場の真ん中を通る道を歩き続けました。夕方近くまで歩き続けたところ、今度はフランス軍の見張り櫓にいた二人の歩哨がイニゴを見つけ、走り寄ってイニゴを捕らえ、隊長のところへ連行しました。

イニゴ：ここはフランス軍の占領地域なのですね？昨日はスペイン軍にとらえられました。

フランス軍隊長：（通訳を介して）そうだろうとも。こんな戦場を一人でノコノコ歩いていたら、誰だって怪しまれるさ。あんたはスペイン側の人間だろう？スペインのどこの出身か？

イニゴ：ギブスコア地方です。

隊長： ああ、あんたはバスク人か！わしもその近くの生まれだよ。

イニゴ：そうでしたか。では、ベイヨンヌ当たりの出身なのですね？

隊長： イタリアの戦場で同郷の人に出会うとは奇遇だなあ。（フランス人兵士に向かって）いいかみんな、この人に何か食べ物を与えて親切にしてあげなさい。

【語り】 こうして、スペインと闘っているフランス軍の人たちからは親切な扱いを受け、イニゴはジェノヴァへの道をつづけ、やっとのことで、ジェノヴァにたどり着くことが出来ました。